



官祿定則

牛山

1898



114
A 1206
2



官祿定則

第一等 現米千二百石

第二等 同 千石

第三等 同 七百石

第四等 同 六百石

第五等 同 五百石

第六等 同 四百二十石

大正十一年四月
大隈侯爵
寄贈

大藏省

第七等	現采三百四十石
第八等	同 二百七十石
第九等	同 二百石
第十等	同 百三十石
第十一等	同 八十五石
第十二等	同 六十七石
第十三等	同 五十石
第十四等	同 三十三石

第十五等	同 二十六石
第十六等	同 二十石
等外	
一等	同 十五石
二等	同 十二石
三等	同 十石
四等	同 七石

官祿渡方定則

第一章

一官祿ハ都テ一ケ年ノ月數ニ割合隔月廿二日ヨリ三日ノ間ニ區分シ相渡ス可シ

但閏月有之候年ハ十三ケ月ニ割合相渡ス

ヘシ

第二章

一三府ハ三所ノ大蔵省又ハ同省出張所ニテ相

渡スヘシ

第三章

一各縣ハ其地方置米金ヲ以テ相渡スヘシ

第四章

一拜命免職トモ十五日前後ヲ以テ一ケ月半ケ月ノ合ヲ相立渡方致スヘシ

但等級ノ進退有之候合モ同断タルヘシ

第五章

一此場所ニ於テ勤仕ノ者他ノ管轄ニテ官祿請
取ノ儀ハ本勤場所ノ證書於無之ハ一切
不相渡候令右證書ヲ以テ一時取換ヲ請
フト云レ速ニ戻入致スヘシ

第六章

一病氣引養生中又ハ喪中暇賜リ候者ニテ職
務被免無之ハ官祿賜ルヘシ

第七章

一願濟歸國又ハ旅行ノ者ハ往還日數ノ外二
十日内ニ候ハ官祿賜ハルヘシ
但二十日以上ハ其日數ヲ以テ相省クヘシ

第八章

一官祿ハ其奉職ノ日ヨリ賜ハルヘシ

第九章

一使部仕丁ハ等外一等ノ官祿ヲ賜ハルヘシ

第十章

一 准スルノ官祿ハ本官四分ノ三心得勤ハ三分ノ二ヲ賜ハルヘシ

第十一章

一出仕官祿ハ

勅奏判共其最下等相當ノ官祿ヲ賜ハルヘシ

第十二章

一 職務被免更ニ御用有之滯留可罷在旨太政官ヨリ御達有之候者ハ右滯留ノ故ト官

祿ノ三分一ヲ賜ハルヘシ

第十三章

一 在官中病死候者ハ為御手當三ヶ月分ノ官祿賜ハルヘシ

シ 准出仕ノ向ハ一ヶ月半ノ官祿ヲ賜ハルヘシ

第十四章

一 萬一官祿請取過有之節ハ速ニ返納致ス

へし

右奉

勅確定候事

月日

大藏省

方今國用多端内外之負債頗ル巨大之類
 有之實ニ財用急促之際ニ付不得止今般
 諸官祿之差等ニ應ニ別紙割合之通上紙被
 仰出候条諸官省其他各局ニ至迄都テ規
 則ニ照準シ来辛未正月ヨリ大藏省ニ相納候
 様可致候事

但官祿ハ當分米壹石ニ付金八兩之價ト

大藏省

相定候事

庚午十二月

太政官

大藏省

別紙之通此度諸官祿之差等ニ應シ上
納被 仰出候条其省ニ於テ取纏メ追
内外之負債償却之見込相立可申事

庚午十二月

太政官

日

四等外	三等外	二等外	一等外	第六等
七石	十石	十二石	十五石	二十石
五十六两	八十两	九十六两	百二十两	百六十两
四两	六两	八两	十两	十二两
日	日	日	日	日
永三两三分余	永三厘	永四厘	永五厘	永六厘五分余

日 日 日 日 日 日 日

第五等	第四等	第三等	第二等	第一等	第十等	第九等	第八等
二十六石	三十三石	五十石	六十七石	八十五石	百三十四石	二百石	二百七十石
二百八两	二百六十四两	四百两	五百三十六两	六百八十两	千四十两	千六百两	二千六百六十两
十七两	二十二两	三十三两	四十四两	五十六两	八十六两	百三十三两	百八十四两
日	日	日	日	日	日	日	日
永八百五十文	永十六两余	永一十一两	永二十一两	永三十一两	永四十一两	永五十二两	永七十三两

六

六

祿稅^上貢納規則

第一章

官祿ハ當分之内米壹石ニ付金八兩之價ト定
メ渡方規則ニ從ヒ都而代金ニテ支給スヘシ

第二章

諸官省其他各局トモ從前ニケ月宛ノ割合ヲ以
テ直ニ大藏省ヨリ請取来リ候分ハ其請取
之節割合ノ定則ニ從テ上納スヘシ

但右上納之都度大藏省ヨリ請取證書ヲ取置
ヘシ

第三章

諸縣ハ各廳ニテ取纏メ正月五月九月ニ度ニ大藏
省ニ輸送シテ上納スヘシ

但右上納之節請取證書ヲ取り置クヘシ

第四章

諸官省其他各局府縣トモ右上納之集額一ケ

年令ヲ計算シ明細ノ割合調書ヲ添エ毎季十月
之ヲ太政官ニ申牒スヘシ

但來ル辛未年ハ全一々年ナラサルモ九月限りヲ以
テ調書ハ差出スヘシ

第五章

太政官ニテ右計簿ヲ大藏省ニ下達シ集額ヲ較
計セシメ以テ國債支消之方法ヲ案シ上聞之後之
ヲ所置セシムヘシ

右之通確定之事

月 日

太政官

大藏省

